

令和7年度 世田谷区立喜多見中学校 関係者評価報告

アンケート回収率 生徒 92% 保護者 65% 地域 43%

喜多見中学校関係者評価委員

委員長 香取葉子

重点目標について

- (1) 「キャリア・未来デザイン教育」の実現に向けて
- (2) 教育 DX の推進に向けて
- (3) 多様性の尊重と共に学び、共に育つ教育の推進に向けて
- (4) 地域社会と協働した教育の推進に向けて
- (5) 「学校における働き方改革」の推進に向けて

保護者に向けてのアンケートであるが、肯定的な意見もありながら、5項目のうち、4項目において、「わからない」の多い結果となっている

ここ数年で、ICT教育、教育DX等、教育や、それに関わる環境が急激に変化し、また、社会のあり方、考え方自体も時代に応じて変化していき、教育現場を目の当たりにしないとなかなか見えにくい部分だろう。

教員側は、当事者として意識を高く持っていることがわかるが、保護者に対するアンケート結果を見る限り、伝わりにくい部分であるということが表れている。

教育目標に関して

●より深く学ぶ生徒を育てる

生徒全体	肯定的	否定的	わからない
宿題や塾のない日でも、家庭で一定時間学習をしている	46.3	49.7	4
学ぶことが楽しい	60.9	35.8	3.3

保護者全体	肯定的	否定的	わからない
子どもは宿題や塾のない日でも家庭で一定時間学習をしている様子だ	40.4	56.0	3.6
子どもは将来の夢や目標を持っている様子だ	58.9	34.8	6.3

以上の結果では、比較的否定的な答えが多く出ている

「より深く学ぶ」ための原動力の部分ではと思うが、もう少し数値があがると良いと思われる。

●勇気と思いやりをもつ生徒を育てる

生徒全体	肯定的	否定的	わからない
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	90.6	6.4	3.0
私は友達など相手のよさを認めつつ、思いやりの気持ちを持って接することができる	86.1	8.2	5.7

保護者全体	肯定的	否定的	わからない
子どもは総じて学校生活に満足している様子だ	72.4	22.7	4.9
子どもは自分で決めることを大切にしている様子だ	77.3	15.4	7.3
子どもは自己の役割や責任を果たそうとしている様子だ	82.5	12.5	5.0

保護者に見せる姿から、7割強の生徒の学校生活が安定していることがうかがえる。

生徒の「いじめ」に対する意識の強さもうかがえる。喜多見中では月に一度行っている「喜多見人権デー」の取り組みでは、いじめは絶対許さないという風土が定着していることが伺える。

また、大人の的確なフォローがまだ必要な時期でもあるだろう。大人のよい姿を見せることにより、「勇気と思いやり」もさらに育つのでは、とも思われる。

生徒の友達との関わり方も、関係によって違いは出てくるとは思われるが、相手に対する意識は高いのはよいことだ。

●健康で明るい生徒を育てる

生徒全体	肯定的	否定的	わからない
学校生活は楽しい	88.5	9.1	2.4
喜多見中の学校行事は楽しい	85.4	10.8	3.8
私は朝食を毎日食べている	86.5	11.1	2.4

喜多見中の生徒は、地域的にも以前より牧歌的といわれている。環境も変化し、人数も増えたが、やはり、まだ牧歌的な部分はあるという。健康で明るい、という雰囲気はきっと引き継がれていっているものと考えられる。

地域のアンケート結果からも、地域で見る喜多見中の生徒の姿は好意的であり、それは地域行事やボランティアなどを手伝う姿がたくさん見えるからだろう。今後はより多くの生徒にこのような経験を積ませてあげたい。

生徒全体	肯定的	否定的	わからない
自分にはよいところがある	71.3	14.9	13.8

昨年まで、自己肯定感の低さが指摘されていたが、少しずつそれは無くなっているのではないだろうか。

その他

●保護者にとって喜多見中は相談しやすい学校だ

学年が上がるにつれて数値が上がっている。全体的にも肯定的意見が5～7割とあり、以前より上がっている。

ヒアリングより

今回も各主任教員よりヒアリングをおこなった。その年その年でのカラーもあるようだが、とくに心身ともに成長著しい時期であり、学年が上がるにつれて出てくる良い部分、問題の部分もあるが、教員も縦と横の繋がりをきちんともち、生徒と向き合っていることがわかる。

成績の付け方も可視化し、説明も行なっているが、なかなか浸透してない部分もあるようだ。学校からの発信をきちんと知る義務は保護者にもあるだろう。PTA 活動などを通じてこれまで同様これからも少しずつでも努力をしていければよいのだろう。

学習面では、二極化している部分もあるという。中学に入って、しばらくして学習を諦めてしまう生徒も一定程度いるというのは、心配材料でもあり、重要な課題でもある。それは、その家庭の雰囲気もあるのか、経年比較して観察も必要だろう。さらに家庭学習の充実を重点目標に掲げていくとよいだろう。私事ではあるが、関係者評価をはじめ20年になる。その間に様々な技術も発達し、また社会の価値観も見直され、どんどん変化していると感じている。昔の悪かったことは改善されているが、さらにまた新しい問題も出てくる。以前タブーだったことが今では常識になっている。今の時代を生きる子どもも育てる大人も、アンテナをはって、その時代に合った行動が必要なのだろう。

平成7年度 喜多見中学校 関係者評価委員

委員長 香取 葉子
坂本 雅則
菊井 善美
百田かな
藤山 昌彦
川名 光治
真中 高志